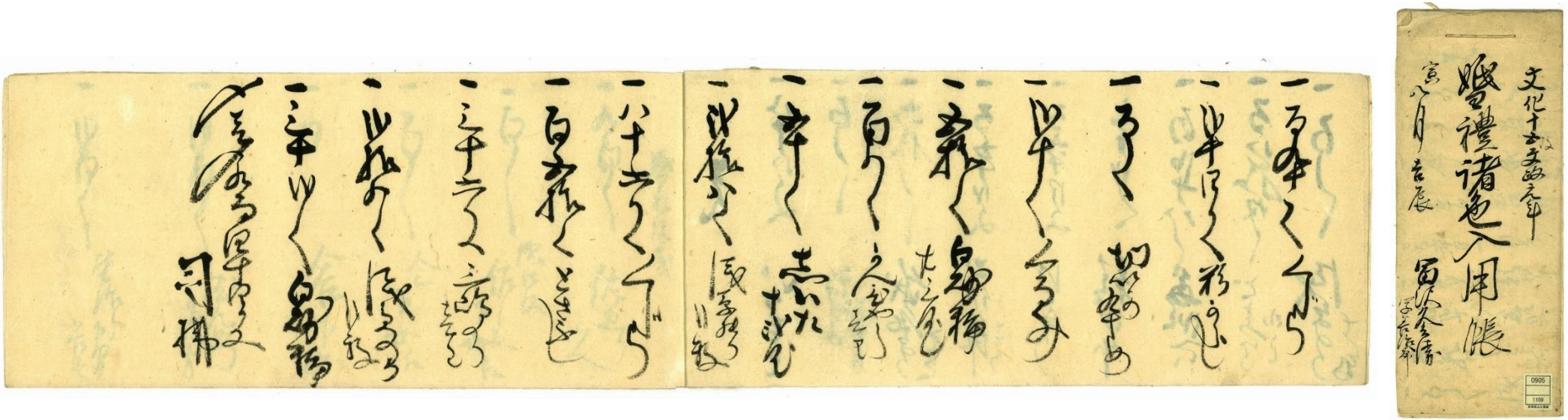

㉑　婚礼諸色入用帳

文化 15 年（1818）8 月

伝統的な婚礼においては、各種役割と同様に、様々な物品を必要としました。展示した史料は、江戸時代の吾妻郡の名主家において行われた婚礼の必要物品書き上げ帳の中から、祝膳に用いたと思われる食材の部分を抜粋したものです。「くじら」や「切いか」、「浅草のり」、「とさふし（土佐節）」などの海産物が多く見受けられます。なお、内陸部の上州では、海産物は塩蔵品や乾燥品を使用していたと考えられます。

富澤久幸家文書　P0905　No.1109

（吾妻郡東吾妻町原町）

【㉑】　婚礼諸色入用帳

〔釈文〕

（表紙）

文化十五（一八一八）改文政元年

婚礼諸色入用帳

寅八月吉辰　冨沢久兵衛

写善治郎

（前略）

一百九十文　くじら
一弐十四文　粉からし
一百文　切いか
　九十め
一弐十文　くるみ
一五拾文　白砂糖
　廿三匁
一百文　かんひやう（干瓢）
　壱わ
一五十文　しいた（け）（椎茸）
　十弐匁
一弐拾八文　浅草のり
　八枚
一八十六文　くじら
一百五拾文　とさふし（土佐節）
一三十六文　三嶋のり
　壱わ
一弐拾五文　浅草のり
　八枚
一三十弐文　白砂糖

〆壱貫九百四十四文
　司払（しはらい）

（後略）